

令和6年度 日本大学スポーツ科学部 個人研究費 研究実績報告書

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格： 専任講師

氏名： 井川 純一

研究課題名	冬季の競技スポーツを通した自治体や競技団体との地域連携の現状と課題
研究目的及び 研究概要	冬季の競技スポーツにおいては、地方自治体や各都道府県の競技団体（スキー連盟など）が、冬季の競技大会を開催するための誘致や大会運営などで重要な役割を担っており、地方の選手育成や地域スポーツの普及発展を考える上で、各自治体や競技団体との連携は必要不可欠である。また、最近のスポーツ界をめぐる動向としては、スポーツ庁の有識者による「運動部活動の地域移行に関する検討会議」で休日の部活指導が民間スポーツ団体など学校外に委ねることが決定されたことを踏まえ、これまで運動部活動の指導を担ってきた教員から地域スポーツ指導者へその役割が移行されることが想定される。これらの現状を踏まえると、冬季の競技スポーツに限らず、全てのスポーツにおいても自治体や競技団体との連携の重要性が増していると考えられる。とりわけ、冬季の競技スポーツは、少子化による競技人口の減少や地方自治体の財政難、人材不足が顕在化していることから、現状の課題を明らかにして、どのような地域連携を進めていくのかを検討する必要がある。また、地域スポーツの普及や競技人口の減少を止める手掛かりにもなることが期待される点についても本研究の意義があると考えられる。そこで本研究は、冬季の競技スポーツを通した自治体や競技団体との地域連携について、現在の冬季競技スポーツの現状や課題を検討し、将来持続的な競技継続や地域スポーツの普及発展を進めるための運営方法や選手の育成方略を明らかにすることを目的としている。
研究実績の概要 研究の進捗状況・得られた成果・今後の課題・研究実績等	この研究目的を達成するために競技団体、自治体の職員やコーチ9名に半構造化インタビューを実施し、修正版グラウンテッド・セオリーアプローチを用いて検討した。 その結果、コアカテゴリーとして「教育としての価値」「地域の発展」が生成された。各地域におけるスキー競技は、地域性を考慮したスキー授業や部活動を通した人間形成、生涯スポーツとしての価値があり、全国大会の誘致と合わせて、経済的にも地域の発展を支えてきたことが明らかになった。 「教育・文化としての価値」・「地域の発展」は、教育・文化の伝承や学校および社会における教育的な価値の伝承、地域の発展につながる持続可能な取り組み、体制づくりが必要となる。 「部活動地域展開」・「競技人口の減少に対する対策」は、種目特性や地域性を考慮し、学校、地域のスキークラブ、競技団体、教育委員会、自治体との連携・協働をする支援・強化体制が必要となる。 「大会の運営方法」・「大会役員の不足」・「指導者の不足」は、持続可能な大会運営方法の模索。指導者養成、質保証も同時に取り組む必要があり、新しい指導体制、受け皿の構築が必要となる。 それぞれの地域性・種目特性を考慮した形での連携から協働を進めることが重要であり（松田，2023），都市部と異なる実情があるため、競技特性や地域性を考慮した地域展開が望まれる。学校の先生と地域の指導者が協働して指導できるような仕組みが望まれている。これらを一体として取り組む必要がある。競技団体と地域、スキー場、自治体、教育機関が協働することで、持続可能な形での競技継続、指導者養成を含む部活動の地域展開、および競技人口の減少を抑える取り組みが急務であると考えられる。今後は、スポーツ庁の取組事例を参考にして、実際の地域スポーツクラブの活動や部活動の地域展開や地域連携の事例を調査、分析することを検討したい。